



妊娠と新型コロナウイルス感染症について

産科・婦人科 科長 清水 基弘

妊娠に与える影響については、過度な心配はいりません。新型コロナウイルスに感染しても、基礎疾患を持たない場合、その経過は同年代の妊娠していない女性と変わらないとされています。ただし、新型コロナウイルスに限らず、妊婦が呼吸器感染症にかかった場合には、妊娠していない時に比べ、特に妊娠後期において早産率が高まり重症化する可能性があります。高齢での妊娠、肥満、高血圧、糖尿病などは、重症化のリスク因子でもあり、このような背景を持つ妊婦の方は、特に感染予防に注意してください。

妊娠中の感染の胎児への影響についてですが、子宮内で胎児が感染したことを示唆する報告も少数ながら存在しますが、ウイルスが原因で胎児に先天異常が引き起こされる可能性は低いとされています。

妊娠中、授乳中の方も、ワクチンを接種することができます。日本で承認されているワクチンは妊娠、胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼすという報告はありませんので妊娠中の時期を問わず接種をお勧めします。パートナーやご家族の方もぜひ接種をお願いします。

分娩方法についてですが、当院では妊娠36週以降に感染した場合は、感染防止のための隔離機能を備えた分娩室が無い場合、院内の感染拡大防御の都合上、経膈分娩が可能と思われるケースでも原則、入院日当日に緊急で帝王切開術の方針としています。これまで4例の帝王切開術を施行しております。母児共に術後経過は問題ありませんでした。妊娠36週未満の感染については、この週数で出生した児は早産児となるため、当院での管理は出来ないため、NICU(新生児集中治療室)を有する施設への転院搬送となります。



新型コロナウイルス感染予防対策 継続中！



マスク着用にご協力ください

